



ニュースレター



11/02/01
 第22号

★三重豪NZ会報 2011年冬号★

◀ 本号の目次 ▶

(1) 〔特集〕：JRPS 三重のオーストラリア旅行後援事業

- ・ JRPS 三重の皆さんとの旅を振り返って 富田正宏
- ・ オーストラリア旅行を終えて 小川正次
- ・ オーストラリア日本協会キャンベラ・ニュース
- ・ カウラへの旅 藤原一昭（客員会員）
- ・ テロピアパークスクールとの交流 宮本忠（会長）

(2) 〔寄稿〕 あーっ！ブルーマウンテンズ 宮本由紀子



(1) 〔特集〕：JRPS 三重のオーストラリア旅行後援事業

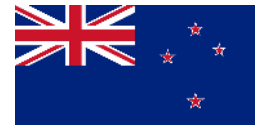
★JRPS 三重の皆さんとの旅を振り返って 富田正宏★

JRPS 三重は、網膜色素変性症のため失明あるいは視野狭窄に陥った人々のグループ「日本網膜色素変性症協会」(JRPS)の三重支部です。この JRPS 三重から三重豪 NZ 協会に、創立 15 周年記念事業としてオーストラリア旅行の企画・立案と実施・同行の依頼があり、2009 年 12 月両協会合同役員会議をもって、具体化に向けたスタートを切りました。合意内容は次のとおりです。主催は JRPS 三重、後援は三重豪 NZ 協会、6 月後半カウラ・キャンベラ・シドニー方面 6 泊 7 日、経費目標 15 万円、安全・安心かつ自主・自立の旅を目指すこと。参加者は 3 月に締め切り、JRPS 三重から各自同伴者をつけて 26 名、三重豪 NZ 協会から世話人として 4 名、合計 30 名と確定しました。三重豪 NZ 協会からの世話人は、宮本忠会長・宮本由紀子理事・私と、現地参加の藤原一昭客員会員です。しかし、実施に至るまでには数々の難関が待ち受けており、宮本忠さん・由紀子さんご夫妻は急遽 4 月 6 日～14 日下見旅行を実施し、5 月の参加者全員説明会の後も、一時帰国中の藤原さんと共に緊急世話人会議を行い、JRPS 三重の皆さんとの意見交換を重ねました。

そして 6 月 14 日(月)～20 日(日)6 泊 7 日(うちキャンベラ 3 泊、シドニー 2 泊、機中 1 泊)の旅を、無事実施できたのでした。現地ではほぼ好天に恵まれ、楽しく愉快でかつ有意義な旅ができたことを、大変嬉しく思っています。キャンベラ豪日協会スチュアート・フォーサイス(Stuart Forsyth)会長はじめ、親身になってお世話くださった現地の皆さんに心から感謝しています。なお、文末に行程表を掲げましたからご覧ください。

シドニーに到着した 15 日、キャンベラまで乗った定期バスは何と高速で 3 時間余りノンストップでした。その間車窓から見えるものは、草原にたたずむ羊や牛の群れと風力発電用の風車だけでした。正にオーストラリアの風景でした。そして、キャンベラに到着するや否や私たちが一斉にトイレに駆け込んだのはいうまでもありません。

15 日の国立美術館、翌 16 日の植物園・国立博物館では、美術工芸品、ハリネズミの剥製、ユーカリの木などに触れながら、視覚障害者のための特別ガイドをしていただきました。ガイド料は原則として有料でしたが、



入場料はすべて無料でした。国家が文化・自然の施設・設備・サービスに、かなりの予算をつけていることを実感しました。



「国立美術館」(キャンベラ)



「交流パーティー」(キャンベラ)

16日夕には、オーストラリア網膜色素変性症協会のグラム・パンクス(Graeme Banks)会長はじめ協会の皆さんと、ホテルでディナーをとりながら交流パーティーを行いました。日本大使館や国立博物館からもご参加いただき、約60名の盛大で和やかなパーティーとなりました。JRPS 三重の河原洋紀会長は英語で堂々とした挨拶をしました。私たち全員で「富士山」「ふるさと」「幸せなら手をたたこう」を合唱した他、JRPS 三重会員や同伴者がハーモニカ演奏・リコーダー演奏・独唱・手品などを披露しました。オーストラリア側からは、日本の琴の演奏などで歓迎されました。最後にスチュアートさんたちへ感謝をこめて記念品を贈呈し、全員が互いの思い出となる小さな品々を交換しました。

17日カウラへ向かうバスの中で、藤原さんから森木勝著『カウラ出撃—生と死の軌跡—』などをもとに、第2次大戦中のカウラ日本兵捕虜脱走事件についてレクチャーがありました。私は、2008年に日本テレビで放送された『あの日、僕らの命はトイレトペーパーよりも軽かった—カウラ捕虜収容所からの大脱走—』を紹介しました。トイレトペーパーは集団脱走の賛否を問う投票用紙でした。カウラ・ビジターセンターでは、カウラ日豪協会トニー・ムーニー(Tony Moony)会長が解説し、カウラ日本人墓地・旧カウラ捕虜収容所・日本庭園へ案内していただきました。銃撃されることを覚悟で、なぜ1,104名の日本兵捕虜が無謀な集団脱走を決行したのか、カウラの悲劇は今も私の脳裏を離れません。



「日本人墓地」(カウラ)

私はキャンベラのホテルで河原さんと同室になり、彼の同伴者川村幸春さんや藤原さんと共に、いつも一緒に行動していました。自分一人でスーツケースから着替えを出してバスルームへ行ったり、白杖を使って段差のある道を難なく歩いたり、携帯電話から嬉しそうにツー・ショットの写真を実に素早く選んで見せてくれたりして、明るく前向きでパワフルな姿勢に感銘を受けました。今回実現したブルーマウンテンズへの小旅行を強く希望したのも彼でした。

またシドニーでのホテル最終日には、藤原さんと私の部屋へ小川正次さん・明美さんご夫妻が来られ、「お疲れ



「ブルーマウンテンズ」(シドニーの西)



様でした」と私たちに 1 時間かけてマッサージをしてくださいました。お二人の方こそ疲れておられたはずなのに、恐縮すると共に感謝の気持で一杯になりました。帰国後 8 月に「オーストラリアを語る会」を開き、旅行参加者が再会した際、正次さんが私に「点字をやってみたら」と勧めてくださったのが切っ掛けで、月に 2 回点字を習っています。パソコンの点訳ソフトを使って、近い将来本の点訳を始めたいと思っています。

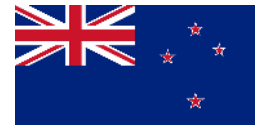
今回の旅行を通じて JRPS 三重の皆さんと知り合えたお陰で、私の世界も確実に広がりつつあります。11 月の「JRPS 三重秋の野外交流会」で、また旅行参加者に再会できることを楽しみにしています。

JRPS 三重創立 15 周年記念オーストラリア旅行行程表 2010 年 6 月 14 日(月)~20 日(日)6 泊 7 日

- ①14 日(月)中部国際空港 13:00 集合。15:20 発→ソウル仁川(インチョン)空港 17:20 着。大韓航空 KE758(2 時間)19:05 発→シドニー・キングスフォードスミス空港へ。
- ②15 日(火)シドニー・キングスフォードスミス空港 6:20(日本時間 5:20)着。大韓航空 KE121(10 時間 15 分)。空港 9:15 発(定期バス)→キャンベラ 12:30 着。12:45 貸切バス。13:15 クオリティホテル・ディクソン(Quality Hotel Dickson)にチェックイン。14:30 国立美術館(National Gallery of Australia)見学。16:30 ホテル着。
- ③16 日(水)ホテル 8:30 A グループ 10 名は、タクシーでテロピアパークスクール (Telopea Park School) へ。10:00 B グループ 20 名は、貸切バスで植物園(Australian National Botanic Gardens)へ。13:00 A・B グループ、園内のカフェテリアで合流し昼食。14:00 国立博物館(National Museum of Australia)へ。16:20 ホテル着。18:00 オーストラリア網膜色素変性症協会 (Retina Australia) の皆さんとホテルで交流パーティー。
- ④17 日(木)ホテル 9:10 貸切バスで、カウラへ。11:30 カウラ・ビジターセンター着。「カウラ日本人捕虜脱走事件」に関する小劇観劇。その後、日本人墓地(Japanese War Cemetery)・旧カウラ捕虜収容所(Cowra P.O.W. Camp)・日本庭園(Japanese Garden)へ。庭園内で昼食。カウラ日豪協会 Tony Moony 会長と交流。14:30 カウラ発。17:00 ホテル着。
- ⑤18 日(金)ホテル 10:00 チェックアウト。貸切バスでキャンベラからシドニーへ。14:30~16:00 ブルーマウンテンズ国立公園(Blue Mountains National Park)。18:20 ホリデーイン・ダーリングハーバー(Holiday Inn Darling Harbour)にチェックイン。19:00~21:00 チャイナタウンで夕食。
- ⑥19 日(土)ホテル 9:00 タクシーに分乗。9:30 オペラハウス。11:15 サーキュラー・キーからフェリーに乗船。11:40 ダーニングハーバー。12:30 昼食。14:30 モノレールでホテルへ。その後、自由行動。
- ⑦20 日(日)ホテル 5:00 チェックアウト。ホテルからタクシーに分乗してシドニー空港へ。シドニー・キングスフォードスミス空港 7:55(日本時間 6:55)発→ソウル仁川(インチョン)空港 17:40 着。大韓航空 KE122(10 時間 45 分)。19:00 発→中部国際空港 20:45 着。大韓航空 KE751(1 時間 45 分)。



「オペラハウス前」
(シドニー)



★オーストラリア旅行を終えて 小川正次★

《編集》本旅行に参加された JRPS 三重の多くの方から感想文などを寄せていただきました。厚くお礼申し上げます。当会報に掲載させていただく予定でした。それらは、最近の『RP 三重支部会報第 14 号』紙上に掲載されました（11月22日）。そこで、当会報では、以下の小川様の記事のみを掲載し、他の玉稿は当協会のホームページに順次掲載させていただくことにいたします。ご関心のある方は、<http://www.mieoznz.com> でご覧くだされば幸いです。以下、小川様の本分です。

今年は JRPS 三重支部（RP 三重）が、全国第 1 号として支部を立ち上げてから 15 周年目である。10 周年記念行事として、ニュージーランドのロトルアを中心とした視覚障害者との体験的交流を組み入れた旅行を実施してから 5 年の歳月が流れた。「あの時の感動をもう一度」との思いで、再度同行してもらった人が今回の旅の半分をしめた。今回は 6 月 14 日からオーストラリア 5 泊と機内で 1 泊の旅だった。29 人のツアーにゴールドコーストで幼稚園を運営されている藤原先生が合流して下さり、30 名の旅行となった。

まずは昨年 12 月 25 日に高田短期大学にて私たちの会の役員と豪 NZ 協会の役員さんとの第 1 回目の会合を持った。会員でもあり、豪 NZ 協会会長の宮本先生から計画の流れをお話し頂き、海外旅行をするためには、と言うことで準備や手続きなども聞かされた。豪 NZ 協会の理事の畠山先生に航空券の手配についてお願いをすることとなった。

安全安心を元に安価と言うおまけが付いているため、頭をひねってもらって色々と検討に検討を加えて、2 点 3 点と変更はあったが、これは公表せずに内部のみの情報として相談は受けたが、ご苦労をかけたことは内部事情のわかっている一部の人のみ知っていることだ。最初の計画はカウラでの宿泊 3 泊をメインに考えられていたが、現地でのコンタクトがうまく進まず、宮本先生ご夫妻はしびれを切らして現地へ赴き、前もって計画コースの下見に出かけて行って身を持って一つずつチェックを入れながら帰宅してから確認を取られた行程表を作ってくださいました。

一時はこの旅行が成立しないのではなかろうか、と真剣に考えられたそうです。しかしどうにか纏めて下さり、5 月 2 日には旅行の説明会が松阪の本町公会堂でおこなわれました。旅立つ前のことであり、興味が深まり、みんなの心はワクワクドキドキの思いで、宮本先生の説明を一言も漏らさぬようにと、聞き耳を立てて真剣に聞いていたのではなかったでしょうか。豊富かつ新鮮なオーストラリア現地の様子を聞き、感動したものでした。参加者の自己紹介も行い、初めて顔を合わせた会員さん、付き添いの人たちとも溶け合い出発前の夢を語り合いました。

出発までに少しでも情報をもって頂こうと 41 通のメール送信を行い、メールのない人にはファックスにて周知させて頂き、いよいよ出発の日を迎えた。それぞれ大きなキャデバックを持ち、荷物とともに夢を沢山持ってセントレアへ 6 月 14 日の 14 時に全員笑顔にて集合した。そして 20 日の 21 時頃にセントレアへ帰国した。旅先での沢山の思い出が刻まれた。

この旅行に対して企画運営設定とお世話をおかけしました豪 NZ 協会の人たち、まずは宮本先生ご夫妻に感謝です。それにご同行頂き、引率の総まとめと会計を一切お任せしてきっちりとお役を果たして下さった富田先生にも感謝です。また現地で合流してお世話頂いた藤原先生にも感謝です。

また全員の印としてリボンや荷物の印を間違わないように付けるためのたすきなどを作って下さったボランティアの方や、車いすを手配して下さった人たちやそれぞれ助け合って手助けをして下さった人たち皆さんに感謝します。

また現地オーストラリアで優しくエスコートして下さった触れあいのあった人たちの暖かさにも感謝しています。帰宅後もオーストラリアからの私たちに対する礼状なども沢山いただき、これまた会計報告などや喜びの声をメールにて 32 通皆さんに送らせて頂きました。そしてこの思い出を語り合おう、と言うことで 8 月 8 日にまた松阪に参加したほとんどの人たちが集い、反省と思い出を和気藹々と語り合ってきました。

最後には、5 年後も元気に第 3 回目の 20 周年記念旅行が出来ることを祈りつつ、思い出を心にそっとしまっ



て次回の企画を密かに夢に描いている人がいることを感じ取れました。本当に貴重な思い出を作れたことに感謝一杯です。

一応取りまとめ責任者としてお役を頂きながら充分の事が出来ず、1人1人への配慮が欠けていたようで、誠に申し訳なく思い反省致しております。

協力頂きました豪 NZ 協会の人たちを始め、引率を引き受けて下さった人たち、これに関わって下さったご家族や知人やボランティアの人たち、本当にありがとう御座いました。

★オーストラリア日本協会キャンベラ・ニュース★

《編集》本旅行についての記事がオーストラリア・日本協会キャンベラの会報7月号に掲載されました。大変お世話になった同協会スチュワート・フォーサイス会長から届きました。以下は、関連記事です。

Our AJS hosts a tour by the Retina Society of Mie

The AJS (ACT) hosted a tour group from the Retina Society of Mie Prefecture on a visit to Canberra in mid-June. The group consisted of 15 vision impaired people and 15 guides. The tour was organised by the AJS (ACT) President, Stuart Forsyth, and the President of the Japan Australia Society of Mie, Professor Tadashi Miyamoto.

The group was met at the Jolimont Centre and transported to accommodation at the Quality Hotel, Dickson. For the next two days our visitors were entertained with specially prepared tactile-presentations at the National Gallery of Australia, the National Botanic Gardens and the National Museum of Australia. However, the highlight of the visit was the dinner the group shared with the Canberra Blind Society (CBS) on the evening of Wednesday 16 June at the Quality Hotel. Our visitors were especially touched by their reception by the CBS and that the President of Retinitis Australia travelled down from Sydney for the occasion.

On Thursday 17 June they travelled to Cowra and on Friday morning Stuart farewelled them from Canberra to Sydney where they stayed two nights before returning to Mie. Stuart said he felt privileged to be part of the Retina Mie tour and to travel, sing and play alongside them. It is a pleasant reminder of the many ways in which the AJS (ACT) is able to create goodwill in an enjoyable and mutually beneficial way.

★カウラへの旅 藤原一昭（客員会員）★

今回の旅は、日本網膜色素変性症協会三重支部(JRPS 三重)の皆様と同行させていただきました。首都キャンベラをベースにした交流、カウラへの歴史探訪、シドニーの観光という日程です。私は、ゴールドコーストを早朝に立ちシドニー空港で、日本からの皆様と合流しました。JRPS 三重より二十六名、内十三名は、視覚障害をお持ちで白杖を手にされ、それぞれに健常者のサポーターが付き添っています。協会側は、会長の宮本忠ご夫妻、富田正宏氏と私の四名です。宮本会長の事前の段取りが隅々まで行き届き、有意義で充実した時間を持つことができました。キャンベラでは、豪日協会会長スチュワート・フォーサイス氏の出迎えとおもてなしを受け、豪州網膜色素変性症協会・キャンベラ盲人協会の皆様と交歓いたしました。JRPS 三重の河原会長の挨拶は、素晴らしい英語でなされ、暖かい拍手につつまれていました。

カウラ訪問の日は、朝から雨が降っていました。貸し切りバスにて二時間の旅です。私は、この旅行に二冊の本を持参しました。一冊は、森木勝著『カウラ出撃』今一冊は、中野不二男著『カウラの突撃ラップ』です。カウラは、シドニーの北西三百二十キロにある人口八千ほどの農業と牧畜の田舎町です。ここには、かつて第十二戦争捕虜収容所がありました。ドイツ・イタリアの兵と共に、日本軍の捕虜千余名も収容されていたのです。私は、バスの中で、今一度カウラで起こった悲惨な脱走事件を思い出していました。あと一年で戦争が終わろうとしていた、一九四四年八月五日午前二時、南忠男の吹く進軍ラップが響き渡りました。生きて虜囚の恥縮めを受けずの戦陣訓に従って、ほとんど徒手空拳の自殺突撃が敢行されたのです。日本兵たちの所持していたのは、先を尖らせた食卓で使うナイフと鉄条網にかけて乗り越えるための毛布だったのです。突撃ラップを吹き鳴らした南忠男も鉄条網を乗り越えた側溝の中で、亡くなっていたそうです。捕虜の日本軍人は、大半が本名を名乗って



おらず、カウラの日本人墓地に眠る英霊の本当の名前は知られないままだとのこと。南の国で忠義を尽くす男だとの偽名を名乗った南忠男は、本名豊島一、零戦のパイロットで、一九四二年のダウイン爆撃に参加、高射砲に被弾して近くの島に不時着。家にはこの時点で戦死の報が届いています。『カウラの突撃ラップ』の著者中野不二男は、多大な時間とエネルギーをかけて南忠男を追い—零戦パイロットはなぜ死んだか—という副題を持つこの著書を書き上げました。この無謀な突撃は、日本人捕虜に二百三十四名の戦死者と多数の負傷者を出し、豪州軍にも四名の戦死者と四名の負傷者を出しました。この自殺に等しい脱走事件は、深いなぞを残しました。戦場で重傷を負って動けなくなるまで戦った軍人は、国の英雄だと考える豪州人にとって、捕虜が恥辱だという発想は、理解に難いと思われま。

カウラ到着の頃には、雨も上がりかけ、バスの停留所には、カウラ豪日協会の会長トニー・ムーニー氏が出迎えて下さいました。インフォメーションセンターでは、資料や写真と共に脱走事件の解説がなされていました。トニー会長の案内で日本人戦没者の碑のある日本人墓地へ参りました。先立ってすぐ近くにあるオーストラリア軍守備隊の戦没者のお墓に献花、戦没者の碑の前には、お線香を供え、全員で「富士山」を歌いました。ここには南忠男ほか五百名ほどの日本人が眠っています。南方方面で戦死した親族があるという私たちの会員の一人が、丁寧に墓碑銘を読んでいたのが強く印象に残りました。その後捕虜収容所があった場所に案内をしていただきましたが、歴史を示す看板が立つのみで広い枯野に返っていました。

“ 兵ありし枯野は風のあるばかり ” 一昭

『カウラ出撃』は、年長の友人ジョージ・フレンド氏より頂いた物で、中表紙には、「謹呈 ジョージ・フレンド少佐殿」と著者、森木勝氏の署名捺印があります。森木勝陸軍軍曹とジョージ・フレンド豪州軍少佐は、ニューギニア、ポートモレスビーの争奪で、戦い、スタンレー山岳地帯で白兵戦を行っています。迫撃砲など火力に勝る、米豪連合軍に押され日本軍部隊は玉砕、転戦を余儀なくされていました。著者は、重傷を負い、気付いたときにはココダの野戦病院に運ばれていたそうです。空路をポートモレスビーの病院に運ばれ機銃弾摘出手術を受け、その後カウラの収容所へ送られた分けです。『カウラの突撃ラップ』の主人公は、零戦パイロット豊島一として戦死、もう一度南忠男として亡くなっています。森木勝氏は、九死に一生を得て『カウラ出撃』を残されたことになりま。この悲劇を語り伝え、二度とこんなことが無い様、努めたいものです。日豪の戦争を知らない日本人学生に接するたびに、この思いを強くしています。

★テロピアパークスクールとの交流 宮本忠（会長）★

JRPS 三重豪州旅行の6月15日の午前は、二班に分かれて交流した。一班10名はテロピアパークスクールの日本語クラスに参加そして、二班は、植物園の見学だった。私は、一班で行動した。その前日、ホテルフロントに「明朝午前八時に、10人乗りタクシーを、テロピアパークスクールまで」と予約した。だがタクシーは、8時10分過ぎててもこなかった。ああ、いらいら。キャンベラではしばしばある風景らしい。四月に私たち夫婦がこの度の豪州旅行の下見に行ったときにも、テロピアパークスクール日本語の授業のお手伝いをしました。その朝は、市内で車が渋滞しておりタクシーの料金メータが、車が停まっても「カチカチカチ」と料金アップを告げるのです。ひやひやしながらか乗っていました。オーストラリアの首都のど真ん中を通るので半ばあきらめていましたが、今回はかなりスムーズに運んでもらいました。

学校に入り受付でしばらくすると、お世話になるメリー先生に迎えられ、そして教頭先生（女性）からにこやかな歓迎の挨拶を受けました。テロピアパークスクールは、オーストラリア政府とフランス政府が半分ずつ出資しているオーストラリア国立学校です。生徒数は1000人以上の大規模校です。70以上の国や地域出身の生徒が在学しているという、文字通りのインターナショナルスクールです。外交官の子弟が多く在学しているのもこの学校の特色のようです。

一限目（9：00～9：55）は生徒との質疑応答でした。私たちはペアで五組に分けられ、生徒がそれぞれの組に配置されていました。私たちの名簿は日本からメリー先生に送信してあり、それに基づき先生があらかじめ組み分けしてました。名簿に男女の小川さんが記載されていたので、先生は夫婦と推測しておられました。夫婦として生徒に紹介していたようでした。当日、混乱するといけないので生徒にはこれを丸秘（マルヒ）にして、



この場だけの偽装夫婦として小川ペアは行動することになりました。授業の方式は、日本語で生徒が「キャンベラは好きですか」、「仕事は何ですか」、「スポーツはなにをしますか」などの質問に私たちが答えるというものでした。そのうち、柔道の話になり、小川正次さんと河原洋紀さんの気合のはいった柔道のデモンストレーションになり、拍手喝采となりました。大変盛り上がり、時間切れになり、メリー先生からリクエストのあった「森の熊さん」の合唱は残念ながら中止となりました。生徒が日本語を学ぶ理由の中には「日本語の先生になりたい」、「日本の会社に就職したい」、「日本に留学したい」との声がありました。

二限目（10:00～10:55）は、絵画をとおしての日本語学習でした。目の悪い私たちは、生徒の手引きによって、教室をでて廊下を歩き大きな絵画の前に集合しました。絵画は、第二次世界大戦後、社会主義圏からオーストラリアに亡命した男性により画かれた人物画（？）です。生徒が一人数分間リレー式でこれを日本語で説明し、私たちが質問するというものでした。当然、質問がなされました。メリー先生によれば、この絵画は、オーストラリアの歴史、移民、市民権、社会主義リアリズムが表現されているということでした。しかし生徒の日本語の説明は短いものであり、私には十分その説明が理解できませんでした。生徒も先生も一所懸命でした。こんな難しい話題を、語学学習に導入していることに驚くとともに感心しました。実践的かつ社会性をもった語学教育方式に深い肝銘をうけました。

この授業後、再び、生徒の手引きによって、教員談話室に案内されました。大柄な校長先生から「ご訪問を受け光栄です」との過分の挨拶をいただきました。そして予期せざる十二分の軽食にあずかりました。誰かが「このチーズどこに売っているのかしら」とつぶやいたら、日本語の達者なメリー先生が「もう捨ててしまった」といながら、ゴミ箱からチーズの空箱をさがし、教えてくれました。ここにも「実直なオーストラリアがある」とうれしくなりました。食事後、ハンカチ、オルゴール、手作り木工品、伊勢型紙の壁掛けなど、一つ一つ説明しながら、日本からのお土産を先生にプレゼントしました。なお、通訳は、クイーンズランド州ゴールドコーストで幼稚園を運営されている現地参加の藤原一昭さんが担当してくださいました。正午過ぎ、学校玄関から貸切バスに乗り、植物園のカフェテリアで二班と合流し、二度目（？）の昼食となりました。

帰国直後、メリー先生から email がありました。以下、その概要です。

宮本さん、当校へのご訪問、大変ありがとうございました。

学期が終わりに近づいています。生徒たちはハッピーでこの金曜日に始まる休暇のための準備をしています。私も、休息が取れるので休暇を楽しみにしています。

みなさん方の当校訪問の機会を、生徒たちは非常にハッピーと感じていました。

私のクラスの中で最も消極的なクラスが、絵画をリレー式で説明した第10年次生です。しかし彼らは言いました。「ものすごく実のある、意義多い経験だったよ」。だから私は宮本さんが学校訪問の機会をつくって下さったことがとてもうれしいのです。

第8年次生のクラスのベビー（注1）たちは、いつもあのようにエネルギーです。だから彼らは、みなさんのご来校を実によく覚えています。彼らは「森の熊さん」を歌わなかったので、私を許してくれません。そのうち歌います（注2）。

みなさんからいただいたラブラリーなお土産は、すべて、生徒たちにわけました。生徒は「くじ引き」で「オミヤゲ」を獲得しました。彼らは実際に、とてもハッピーでした。彼らのすべてが平等のチャンスをもちました。そして幾人かは大きい賞品を獲得しました。校長先生には、ラブラリーなハンカチをさしあげました。彼は非常に喜んでおられました。いつも助けてくれる先生には赤いハンカチをあげました。私自身への「おみやげ」である「月光の中の二匹のフクロウ」（注3）は、コンピューターの前の壁に飾りました

さて、ここ学校は平和です。しかし、オーストラリアの国会はそうでもありません。ご存知のように、私たちの



国は、新しい首相です（注4）。多くの人同様、これは私にとっても大きなショックでした。私は、ラッド前首相（注5）が好きでした。オーストラリア人は、経済成長や失業、多すぎる外国人問題を懸念しています。でもとてもよい首相をもっていました。私たちは、近いうちに総選挙があることを期待しています。日本も今週あたりに総選挙がありそうですね（注6）。

もう一度言います。ご来校、本当にありがとうございました。

メリー（メリディス ボクス）、8学年次生そして10学年次生

（注1）生徒のこと。

（注2）学校訪問前に、メリー先生から「森の熊さん（日本語）」の歌詞のリクエストがあった。それを、私たちと合唱するために。

（注3）メリー先生へのみやは伊勢型紙による壁掛け。

（注4）オーストラリアの現政権は労働党です。ジュリア・ギラード氏がオーストラリアで初の女性首相となった（48歳）。6月28日に組閣。6月24日に、労働党は副首相のギラード氏を議員総会で新党首に選任した。

（注5）52歳（労働党）。

（注6）メリーさんからのこのメールは6月29日付です。オーストラリアの総選挙は8月21日に行われました。

（2）〔寄稿〕 あーっ！ブルーマウンテンズ 宮本由紀子

「1年のうちで天気のよい日はわずか」といわれている。オーバーにいえば「365日のなかで360日天気が悪い」とか。2010年度全国オーストラリア・日本連盟キャンベラ大会に参加する機会を利用して、エコポイントが窓から見えるモテル宿泊で10月13・14日・15日の二泊三日、ブルーマウンテンズに4回目の挑戦を決行しました。やっとゆっくり森林浴ができたはずの会長はブルーマウンテンズの、調査、研究、記録に忙しく、ナップサックを休憩した椅子に置き忘れ、その上、集音マイクを移動中になくしてしまい、一日目はかなり不機嫌でした。断崖絶壁の山の中を引き返すことはできず前進有るのみでした。

4月にJRPS 三重のオーストラリア旅行後援の下見に行ったときもブルーマウンテンズを訪ねました。このときの会長は、宿泊してのんびり森林浴をしようとはりきっていたのに、足痛に悩み痛み止めに助けられ、モテルで脂汗を流していました。その間、私一人でさわやかな汗をユーカリ林の中で流していました。天気にも恵まれ、ジャイアントステアーズ839段の急勾配の階段を下り、階段途中にある高さ780mの3つの岩から成る「スリーシスターズ」の見晴洞窟に寄りフェデラル・パスの2時間ほどを散策しました。

二日目はファーバー階段（1032段）にトライして滝つぼまで行ったり、崖の上に垂直につくられた見晴台を1つ1つ探索してゆっくり時間をかけて満喫した反面、トイレ施設がないためかなり我慢の山歩きでもありました。平らな土の道、石段、木の階段、スチールの階段などをおりて水溜りをさけたり、泥道にはまったりの2時間で、鳥のさえずりと可憐な花ばなにむかえられもした2時間でした。形がさまざまな岩をすりぬけ、岩の上の見晴台にたったり（ジュリエットテラスと言う名前がついていたり）遥か彼方の山々に目をこらしたり、雲海ならぬ樹海に圧倒されたりの時間でした。頭上をゆっくりとスカイウェイが移動して行きます。勾配52度のシーニックレイルウェイに乗っている人々の歓声がこだましています。巨大な観光施設シーニック・ワールドがあり、頂上駅から溪谷の谷底駅までケーブルカー（シーニックケーブルウェイ）や昔、石炭を運んだトロ



カトゥーンバ滝（上）
 その滝つぼ（下）



ック列車（シーニックレイルウェイ）に乗りあつと言うまに往復できます。谷底も一部は車椅子でも散策できるようになっています。変わりやすい山の天気で一日目の夜には強い雨音に目覚めることもありましたが、二日目の朝はすっきりと青空になりました。旅たつ三日目の朝は雨で「本日の天気は嵐」とのことでした。いつも天気に恵まれて、晴れ家族であると知る人は知っています。太陽さんありがとう！

日本百名山を踏破された豪日協会シドニー会長のマクリントックさんによれば、大多数の人が利用するカトゥーンバ駅ではなく、その先にあるブラックヒース駅からのブルーマウンテンズを推薦するとの情報を得ました。次回にはそこから散策しよう。多分人々の歓声もざわめきも、空中にうかぶ乗り物も見あたらない静寂のみがあるのでしょうか。彼によれば一言でブルーマウンテンを表せば、「あーっ」だそうです。情景を想像してみてください！

《事務連絡》

《会計から》会費未納の方は納入をお願いします。

百五銀行津市役所出張所 ミエゴウエヌゼットキョウカイ 82920

編集後記

宮本先生から、2010年12月中旬に会報の原稿をいただいて、年末年始のお休みに作業をしようと思っていたところ、年末にひいた咳風邪が1月中旬までぐずぐず治らず、最後には胃腸風邪までひいてしまい、気がつけば1月も終わり2月が始まっていました。今回も会報の発行が大幅に遅れて本当に申し訳ありません。今年の冬は厳しい寒さが続いています、皆さんも体調を崩さぬようご注意ください。

発行 三重オーストラリア・ニュージーランド協会
発行責任者 宮本忠 TEL/FAX 059-368-2112
〒510-0226 鈴鹿市岸岡町2626の95
Email: tyy15m@mecha.ne.jp
※ この会報にある文章・写真の無断掲載はご遠慮下さい。

Mie-OZ-NZ
Society